

議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年4月18日(木) 第2委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 福山権二 藤木百合子 國利知史
松本みのり 林高正議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 植木佳那子議会事務局主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍聴者 1名
8. 会議に付した事件
 - 1 付託事項の審査
 - 2 今後の審査について
 - 3 その他

午前9時58分 開 議

○政野太委員長 第23回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を開会したいと思います。本日、傍聴、録音、録画を許可しております。ただいま出席委員7名全員でございますので、直ちに協議に入りたいと思います。

1 付託事項の審査

○政野太委員長 まず、付託事項の審査ということで、前回、皆様方に御案内しましたとおり、参考人への意見聴取を行いました。回答がそろいまして、まとめてもらいましたので、この資料についての説明をお願いしたいと思います。係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 本日、moreNOTEに資料を3点掲載しております。まず、資料1が参考人意見聴取結果、21名の参考人の方全員から御回答いただきましたので、その回答結果をまとめたものになります。その他、資料2が参考人別意見一覧で、報酬と定数それぞれファイルを分けまして、どの参考人さんがどういった御意見をくださったかということをして記載しておりますので、御一読ください。それでは、資料1につきまして簡単に説明をさせていただきます。まず、議員定数について、こちらから具体的に18名から20名までの3案、その他という形で4つの項目について御回答をお願いしました。18名と答えた参考人の方が8名、19名と答えた方が5名、20名と答えた方が4名、その他と答えた方が4名となっております。その他の定数と答えた方の具体的な人数につきましては、表の下段に書いてありますとおり、16名、16から19名、17名以下、報酬総額に連動させるという御意見をいただいております。それぞれの定数とした方の主な意見は、定数別にまとめております。18名とした方の主な意見としては、人口減少が主な理由であるとか、それから市の財政が逼迫しているといった理由を挙げておられます。以下、19名、20名、その他という形で、それぞ

れの意見を抜粋したものをこちらに記載しております。まとめとしまして3ページ目になりますけれども、まず8名の参考人が定数18人と回答されたほか、その他を加えると、17名の参考人が、現在の議員定数から、1人から4人減が適当であると回答されております。その主な理由は、本市の人口が減少していることとされており、財政状況からも定数減とすべきとの意見もありました。一方、4名の参考人が定数20人と回答されており、その理由は、本市の市域が広域であるため、現在の定数で地域に根づいた対応をしてもらいたい。議員の人数を減らすことは庄原市議会の衰退につながるのではないかとといった御意見でございました。続きまして、議員報酬です。こちらについても、1から3案まで、それぞれ議長、副議長、議員という形で、具体的な金額を示した上で御回答いただきました。その回答として、1案と答えられた参考人が6名、2案と答えられた参考人が5名、3案と答えられた参考人が7名、現行通りが1名、その他として2名の参考人の方が、表の下段に書いてありますとおり具体的な金額を示した回答をしてくださっております。こちらについても1案、2案、3案、その他で、それぞれなぜこの意見になったかという具体的な意見について抜粋したものを記載しておりますので、ごらんください。報酬に関するまとめにつきましては、その他の提案を含めると、21名の参考人のうち19名が現在の報酬額から増額と回答されています。若手議員の参画や議員の成り手不足という視点から、報酬の増額は妥当であるといった意見や、今回、特別委員会から示された案は、市民感情からすると大幅な増額と感ぜられるとの意見がありました。現行の報酬額とした参考人からは、財政問題などから増額することに市民の理解が得られないといった意見があったほか、10万円から20万円の報酬額が適当と回答した参考人からは、議員報酬を生活給と考えるべきではないとの意見がありました。最後に参考資料としまして、クロス集計結果をそれぞれまとめております。こちらの見方なのですが、例えば定数18名とお答えされた参考人の中で、横表、報酬については、2案3案と答えた方が3名ずつ1番多いというような形の見方になります。同じように色つけをしているセルが、クロスした場合に1番多かった回答の組み合わせという形になります。こちらも参考までにごらんいただければと思います。簡単ですが、説明は以上となります。

○政野太委員長　　今、御説明がありましたとおり、事前に皆様方にも資料を配付していると思うのですが、参考人の方への意見聴取については、こういう形で取りまとめをさせていただきました。きょうは、この参考人の意見聴取の中から協議をしていきたいと思うのですが、最初にこれからの日程を先にお伝えしておきます。4月25日議員全員協議会の後、24回の議員定数及び議員報酬調査特別委員会の開会を予定しております。審査協議、あるいはその調査については、当初予定していたものが、これをもってほぼ完結したと考えております。25日の議員全員協議会の後の委員会において、この委員会における、定数あるいは報酬についての答えを出したいと考えております。それに伴って、きょう、この最終的な協議内容として、今回の意見聴取について皆さんの意見を聞かせていただければと思っております。よろしいでしょうか。この意見聴取について、皆さん何か感じられたことはございますか。もう率直に感じられたことを、きょうは意見交換させていただければと思います。最終的に25日に、皆さん一人一人御意見をいただいて、それから決定したいと考えておりますので、きょうはもうこのことに関して御意見をいただきたい。國利委員。

○國利知史委員　　定員については、18人、19人、20人、その他ということですが、その他も報酬総額に連動されるというもの以外は、3つとも減になっています。参考人の方々からすると、やはり減の考えが強いのかなということが、調査を通じてあらわになったのかなと思います。

○政野太委員長 松本委員、いかがですか。

○松本みのり委員 もともと会議に参加させていただくに当たって、20人でいきたいという思いでおりました。ただ、人口減が進む中で、どこまで20人でいくのだという意見に的確にこたえられる根拠なりを持っていないわけでもないため、すごく悩んできております。御意見をいただいた方の中で、地域の状況を議会へつないでいくシステムづくりの強化が重要ではないかと書いてくださっている方もいらっしゃいます。私ももうそのとおり、本当にその部分をもっと強化していかなければならないし、議会で3年間活動させていただく中で、やればやるほど課題は見えてくるし、やらなければならないことも見えてきました。その部分の強化という面では、やはりできるだけ多くの人数を確保しておきたい。でも一方で、1人、2人減の御意見をたくさんいただいている中で、ぎりぎりの選択として今、委員会人数6人掛ける3、プラス議長の19人というところで思っております。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 アンケートの結果を見て、まず議員定数の関係について言うと、この委員会の中で議論していることとほぼ同じ趣旨の回答が多いという感じがしました。そういう意味では、一般的に議会の権能とか議会に何を期待するかということあまり反映していません。定数18、19、20についても、感想として人口減が続いているから減らしたほうがいいのか、議長を除いて奇数がいいから19名がいいとか、奇数がいいのなら22でも奇数になります。根拠が、議会の権能を踏まえた上でこうだという回答が少ないのではないかと思いますので、ますます議会で独自判断をすべきだという感想を持ちました。例えば、人口は減少しているが、市の面積が広いので1名減が適当だと。これは何の根拠があってこういう回答なのかよくわかりません。議員の人数が減ったほうが、住民対応が充実すると思う。これも議員をやっている側から言うと、本当にそうかなという気がしますし、人数にあまり関係ないだろうと思います。他市の人口等と比較して2減の18が適当だと。一般的な感想ということで、ますますこの回答を見て、議会の独自の判断で決めると。参考にならないことはないですよ。何が1番参考になったかと言えば、あまり議会に期待していないという感じがありました。

○政野太委員長 藤木委員、いかがですか。

○藤木百合子委員 私も3年やってみて議会の持つ役割とか、市民の意見を本当に届けてきたかな、届いたかな、それが市の行政にきちんと反映されてきたかなと考えると、なかなかそうはなっていないくて、議員活動の不足を感じざるを得ないなと思います。そういった中で、また議員の人数を減らしていくと、そのあたりがどうなのかなと。先ほど福山議員も言われた、議会に対しての期待度がどうなのかなということを、この意見を読みながら感じました。議会に対する期待に応えるような議員活動をやっていないといけなのだけれども、人数とかかわってくると、なかなか難しい問題だなと思いました。

○政野太委員長 堀井委員、いかがでしょうか。

○堀井秀昭委員 私がずっと言ってきたことと大して変わらない。ただ、こういった調査をすれば、こうなるだろうという予測は十分にあった。議会が市民の代表である以上、市民意見を無視した行動をとるとするのは…。参考の意見を聴取した以上、そんなに軽く考えてはいけないという気はします。

○政野太委員長 桂藤委員、いかがですか。

○桂藤和夫副委員長 参考人さんからいろいろ御意見を承っていますけれども、10年前に25人を20人にされて、それから10年間何もなかったのが、今回特別委員会を設置して検討しているわけです。私

の個人的な意見からすれば、やはり選挙で定員割れとか無投票選挙という事態が起これば減らしてもいいのかなと思っています。それ以外に、予算委員長とか監査委員の問題もありますけれども、庄原の場合、現状で職員数がかかり減っており、議員が市民に1番近い存在であるべきではないのかなと思っていますので、市民の意見や地域課題を解決するためには、我々議員がしっかり行動しなければいけないのかなと。22の自治振興区が一生懸命されているので、いろんな意見があるかもしれませんが、しっかり議論をしながら結論を出せばいいかなとは思っておりますが、個人的には、定数については現状維持でいいのではないかと思っております。

○政野太委員長 何名かの方から結論を急ぐ意見をいただいているのですが、きょうは冒頭に申し上げたように、この意見聴取について御意見を賜ればなと思っています。今の皆さんの意見を聞かせていただきますと、この参考人の方の意見聴取は根拠がないという意見、あるいは、市民感情というか、言われるとおりでという意見もありました。一つだけ確認をさせていただきたいのですけれども、この委員会を組織するに当たって、最初に市民アンケートをとっております。市民アンケートは、何の根拠もなく、市民の方から意見をいただいたものだ認識しております。それから、その市民アンケートをもとに調査をしてまいりました。その結果、参考人の方に意見を聞こうということを、ここで皆さんとまた決めさせていただいて、選ばれた参考人の方に我々が調査をした資料を提示し、意見を書いていただいております。そのことだけ、しっかりと御認識いただければと思います。これからまとめに入っていく中で、一つの調査として、この意見聴取をしたものが果たして本当に意味がないものなのかということになってきますので、そこについてだけ、御意見をいただければと思います。定数が20とか19とかということについては25日にやればいいのかと思いますので、御意見をいただければと。福山委員。

○福山権二委員 今委員長の発言されたことについて、この委員の中で、この調査は意味がなかったという意見があったと言われたけれども、そういう発言はなかったと思います。別に意味がないことはない。私の意見かと思うけれども、意味がないわけではない。大体想定されたような意見だった。それはそうかもしれないけれども、今の議会に対する認識や、議会に対する市民の思いが正確に表明されていますので、非常に参考にはなると申し上げました。だから、これは意味がないと言ったつもりはないのですよ。十分に参考にしないといけないし、どう参考にするかが問題です。我々議会が実際に、1期であろうと5期であろうと何期であろうと、やってみた議会の権能ということ、それぞれ総括してやっています。1期の人とは1期としての3年間の総括があるだろうし、議長経験をしたり、何期も重ねたりした人は議会としての役割は十分認識されていると思います。その中で、定数を考えるときに、どういう判断をするかということになるので、そういう意味では、参考意見を重視しながら、議会の独自判断が非常に大事になると思ったという感想を述べました。このアンケートに対する意見の出し合いから言えば、だから、これは無視してもいいと言ったことは1回もないので、そこは強調しておきます。

○政野太委員長 わかりました。確かに意味がないということについては僕の認識の間違ひだったのかもしれませんので、訂正したいと思います。堀井委員。

○堀井秀昭委員 その他が4人になっているのだけれども、16人という意見、17人以下という意見、それから16人から19人という意見は見えますが、これは3人。4人というのは、もう1人どこかにいるのか。

- 政野太委員長 具体的な箇所がわかりますか。
- 堀井秀昭委員 議員定数に対しては意見がないということで、その他になるのか。
- 政野太委員長 局長。
- 山根啓荘議会事務局長 回答としては18人、19人、20人を議会から示し、それ以外に自分の考えがあるかということで、その他の欄を設けました。その他の中に4人おられるのですが、3人は具体的に人数を書かれました。もう1人の方は人数を書かず、報酬額に連動させて人数を選ぶべきだということを出されています。
- 政野太委員長 例えば、議員が18人なら1人当たり20万、20人なら1人当たり18万というように、報酬総額を先に決めて人数割りしてはどうかというのが、その他の、報酬に連動させるという意見になっております。そのほか、何か御意見ございませんでしょうか。福山委員。
- 福山権二委員 その他とした方の主な意見という項目の中で、2番目の、議員が多いことによって、一人一人の議員の責任感が薄いと受け取れるような言動が目立つ議員が少なくない。これはこのままこのように書いていたのですか。
- 政野太委員長 恐らくこの意見だと思いますが、読み上げてよろしいですか。議員一人一人が年間180日で済むような議員活動ではなく、もっと市や地域のためにできることがあるのでは。予算や人口の規模から推察するに、委員会の人数が6名という根拠がよくわからないし、面積が広いというのも関係ない。議員も市民から選ばれた以上、何らかの能力が高くなければならないと思うし、議員の個の能力が高ければ、人数が減っても困らないはず。当選をゴールにしてほしくない。そもそも人口減少社会において、これまでの機能や生産性を維持しようと思えば、一人一人能力の向上が求められるのは当然であるというのが16人と回答された方の意見です。
- 山根啓荘議会事務局長 先ほど福山議員から御質問があったのは、16人から19人と答えられた方の意見です。2行目です。一生懸命されているのでしょうかということ、その次に、今までの議会活動を見ていると、議員数が多いことによって、一人一人の議員の責任感が薄いと受け取れるような言動が目立つ議員が少なくありませんでしたと。そういったところの表現をとらせていただいています。
- 政野太委員長 福山委員。
- 福山権二委員 今の議会の定数20人が多いという前提に立って、この20という人数が多いため、結局、中には責任感が薄い人がいると。したがって、20の定数は減にしたほうがいいと。20人もいたら議員としての認識や行動に責任感がない人がでてくるので、そういう人が議員にならないように人数をへらす。働かない議員に議席を与えるべきではないという意見なのですよ。
- 政野太委員長 確かにここだけを切り取るとすれば、福山委員が言われるとおりになるのかなと思いますけれども、あくまでこの方の根拠に結びつけるための前段でそういう表現があるというだけです。決して極端に、福山委員が言われたようなことを理由にされているわけではないと、私は読ませていただきました。そのまとめを全文書くわけにはいかないのですが、特徴的な意見について、こちらの資料にも記載しているということです。福山委員。
- 福山権二委員 こういうはっきりした意見は貴重なので、意見の内容は別にしても、主張については非常に評価しています。
- 政野太委員長 ここの皆さんにもう一度認識をいただきたいのですが、この委員会では、当初から議員の個の能力についての話もありました。しかし、この委員会の役割として、そのことについて

ては一切触れてきていないと考えております。だからこういう意見もあるのですが、それを裏づける根拠も我々は調査できませんので、そこについては、1人の意見ということでお考えください。委員会として調査をしてきたわけではないものです。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 確かにそうです。ただ、堀井委員が言われるように、このアンケートで市民の意見を聞いた以上は、そこにも我々の決定をする根拠を置かないといけません。市民意見は非常に大事なもののなので、その意見がどういう意見だったかを、きちんと検証しないといけないということで進めています。僕はそういう意味では堀井議員と同じ立場ですから、誤解のないようにしていただきたい。もう一つ、例えばアンケートの中に、活動が鈍いとか、市民の声を反映していないという意見があります。この委員会でも主張しているように、市民はそれぞれ自分が書いた議員がいるわけで、投票もしていない人が、おまえはだめだとか、これはだめだとか…。自分は例えば福山と書いたけれども、がっかりだと。福山は働かないではないかということなら、反論として、もっといろんな問題提起をするとか、ここを何とかしろみたいに、あなたは議員を使ったのか。選挙権を行使した市民とすれば、その責任もあるので、そのあたりも考えて判断をしないといけないと改めて思ったというのが強いのです。よく聞くのですよ。うちのほうは議員が働かないとか、何もしないと。何か頼んだのかと聞けば、いや何もしていないということがあるので、そういう議員として不適格な、働かないということは、あまり意見として判断をする土台にはならないかなという意見を持っております。この議会ではこれまで、あまりこういう意思統一をしていないのだけれども。例えば、私が地元へ行くと、市道でいつもグレーチングががちゃがちゃ言うのだけれども、これを直してくれと聞くわけです。わかりましたと言って、すぐ建設課に電話をして、何とかしてくれと言えばわかりましたと。これがいいかどうかと考えるのです。それはその地域の行政区の班として意思統一して、それを要請として出せばいいと。文書を書くことについては援助するけれども、それは地域でやれと言って、山内全体で、1カ月でこのグレーチングががちゃがちゃとなる所を全体調査してみようと。それをまとめて、行政へ自治振興区の区長として要請しようというのが僕は正当だと思うのだけれど、聞いたらすぐいいですよと私はするのだけれども、そうしたらすぐに来て直してくれるのです。福山議員はよくやってくれと。こういうことが本当に議会の活動なのかと思うのですよ。悪いことではないけれども、せっかく自治振興区でやっているのだから、自治振興区の地域の要望を吸い上げて、行政に反映するということがなければ、あまり議会としてはよろしくないかなと思うこともあるのです。だから、あの議員はよく働く、働かないといっても、基準があるわけではないし人気取りでもない。

○政野太委員長 休憩します。

午前10時32分 休 憩

午前10時36分 再 開

○政野太委員長 それでは再開をします。堀井委員。

○堀井秀昭委員 市民の皆さんの意見の中には、福山議員が言われているような意見もあるようすけ

れども、本来、個々の人間ですから、議員の能力にしろ、やり方にしろ、当然差があったり、違いがあったりします。個々の議員の問題以前に、皆さん方が言うておられるように、庄原市議会がここで定数を減らしたら、議員活動が低迷するとか、議会が衰退していくのではないかと。今までも言ってきましたけれども、議会運営上、それに対応する議会運営の在り方はいろいろ考えていけるので、そこをあまり問題にしたらしんどいのではないかなと思う。何人になろうとも議員の努力によって議会活動は活力を維持していくという、その道が閉ざされるわけではないと思います。

○政野太委員長 議長。何か一言。

○林高正議長 自戒を含めて言うならば、開かれた議会がなかなか認識されていないということ。今、皆さんと一緒に努力して、議会の見える化といったこともやっています。しかし、ほとんどの市民の方は、議会が何をしているのかというのは興味がないのだなと、私はこのアンケートを見て感じたところです。これが正直なところです。非常に厳しい意見も多く書いてあります。こちらが選ばせてもらった、地域でいろんな活動をされておられる、あるいは恐らく、その地域の議員と非常に近い距離にある方ではないかと私は思います。そういう方が多いとは思いますが、それでもなお厳しい意見があるというのが、私の感想でございます。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 議長の発言に非常に意味があって、そこの総括から出発するわけです。このアンケートを見ても、改めて議会はあまり注目されていないとか、興味を持たれていない。その悩みは当然あって、だから傍聴者も少ない。ネットを見る人も50人を超えることはない。隣の市などと比べて、安芸高田は、あれがいいか悪いかは別にしても非常に注目度があると。なぜ庄原市議会は、今議長が話されたように、そういう関心度と注目度がないのか。重大な定義なので、そこも考えていくべきだろうと。それが20人、18人、19人、そこは連動しないかもしれないけれども。長く議長をやられた堀井議員などが、そこはこうだと正解を出してもらえれば一番いい。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 重ねて言うようだけれども、20人なら大丈夫だが定数減にしたら議会が衰退するということを、今の議員が理由にするのは情けない。何人になろうとも選ばれた議員は、庄原市のために、庄原市民のために、十分な活動をしていく責任があるし、その道はある。だから、そういうことを理由に、定数の問題を現状維持がいいとか悪いとかというところへ持ち込むのは間違っている。やってみないとわからないではないか。なぜ、定数を減らしたら議会が衰退していくわけ。地域とのつながりが薄くなるわけ。そんなことは、あまり理由にならないのではないかなと思う。市民の皆さんが考えているのは、人口が7,000人、ことし1,000人減れば、改選期までには8,000人減る。単純に考えて、議会活動が見えるとか見えないとか以前に、これだけの人口減少が起きているまちで、議員定数についても、やはり考えてほしいという意見だと思う。

○政野太委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 議会に対する興味や関心を、私も一市民だったころ、どれだけ持っていたかなと考えると、どうかなのところがあります。市民の思いと今の市政や議会が乖離しており、自分たちはこのようにしてほしいというのが、なかなか通らないとか実行されない。人口減少がずっと続いて疲弊している地域が、いや自分たちはもっとこういうことをやりたいのだと言ったときに、それが市政に反映されたという実感がなかなか市民の方に伝わらない。むしろ、もう少しここをこうし

てほしいのにというところが伝わらず、言ってもだめだ、このまま行くしかないみたいな感じになってしまっているのかなと少し感じるのです。人口減でどこも疲弊しているけれども、すごく頑張って学校や人数をふやした鳥取の町とか島根の海士町とか、そういった地域を見ると、議会も市長たちと一緒にやってやっとな。そういう成功体験みたいなものができていないというところで、議会が見えないのではないのかなというのも、この文章を読んで少し感じました。

○政野太委員長　意見を皆さんからいただいのですが、少し確認をさせていただければと思います。今回の意見聴取の結果について、いろんな意見を皆さんお持ちだと思のですが、これまで調査してきた内容を皆さんに見ていただいて、それから返ってきた答えとして、今回はおおむね、定数については減が望ましいのではないかと。報酬については、増額がよいのではないかとという意見が最終的なまとめとして出ております。このものについて、最終的な判断をするに当たっての効力といいますか、そういったものは皆さん方個人で図られるものだと思いますが、これが有効なものであったということについては、皆さん共通の認識をさせていただいても大丈夫でしょうか。福山委員。

○福山権二委員　大変重要な参考資料でありましたが、特別委員会がこの集約された意見を相当基調にして判断をするというのは一つの危険性がある。重要視はするのだけれども、本当にこれが市民の声なのかと考えると、参考人として意見を述べなかつた多数の市民に、そういうことで決めたのかと言われたら困る。例えば、この中には自治振興区の代表もいる。いろんな役職の代表がいる。その代表が、このことをそれぞれの組織に持ち帰って十分に議論して、代表してアンケートに答えたわけではない。したがって、市民を代表する見解として集約をするということには少しレベルの違いがある。だから、各団体の代表者が出した意見として参考資料にはなる。参考にして判断をしないとイケない。けれども、これに市民の意見が集約されていると認識して判断するのに十分かということ、そうではないので、そのことに完全にこだわらずに意見を出したいという気持ちはあります。

○政野太委員長　きょうもいろんな意見が出ておりますように、まさにそのとおりで、これだけをもって最終決定することは絶対にあり得ません。これまで調査をして、その都度皆様方の意見を聞かせてもらう中で、そうではない、そうであるというような意見が繰り返されたと思っております。きょうそろった、これまで調査してきた結果で、実は答えを出してきていないものもありますし、全員が共通の認識を持ったものもございます。それらをもって今度、最終的な判断を委員会ですでいただければと思っております。福山委員。

○福山権二委員　議論の中で、堀井議員が出された、人口減がこれだけ続いているのに、20人でなかつたら議会活動ができないのはあり得ないではないかと。例えば18人にしても、いろんな方法があつてできるのだということに対して、完全に集約はしていないのですよ。いやそんなことはない、20人いるという意見、18人でいいという意見、最終的に定数を人口減に連動して減らして、それで努力するのが議会の任務だということ。この広大な面積の中で、それでは不十分だという意見は対立している。少しそのあたりの認識は、もう少し議論したほうがいいのではないかと思います。次の機会です。

○政野太委員長　いや、それはきょうの時点がよろしいかと。少し遡って思い出していただければと思うのですが、その都度、ある程度まとめを出してきております。その中で、20名の場合の委員会の議員構成、19名の場合の構成、18名の場合の構成ということで、その都度皆様方に意見をいただきました。そのときにどれにするということはもちろん決めておりませんが、不可能ではないという根拠を

つけて、まとめをしてきたと思っております。少し資料を遡っていただければあると思います。國利委員。

○國利知史委員　いろいろ議論されていますけれども、このアンケートを参考人の方に書いてもらって、それは僕個人としては市民の代表という位置づけなので、市民の皆様はこういうことを思っているのではないかと。何かの団体の長に送っているから、役職がない方とか、そのほかの方々の意見を100%集約したアンケートではないのではないかという話もあったのですが、僕が地域の方々と話をする中では、いい意見も悪い意見も大体同じようなことを言われます。僕個人としては、これは市民の方の意見を反映したアンケートになっているのではないかなと思う。今議論になっているように、このアンケートを重要視して決めるとかではなくて、この議会は何人いるのか。例えば、議会ではなくて職員さんもそうではないですか。庄原市の執行体制の中で事業を行っていくためには、これだけの職員が絶対要るのだと。そこから17人少ないというのが出ているから、いる人数で何とかしないといけないというのがあるのだと思います。だから議会としても、この議会を運営するには何人いないといけないのかという意思をはっきりしておけば、ここの整合性はなかなか図れない場合もあるかもしれないですが、今まで積み上げてきたデータ等を含めて、議会としてこれだけは絶対要るというのをしっかりとつくっておけばいいのではないかなと考えています。実際、動けば動くほど庄原は広いなと思うし、意見を聞ききれていないとは思いますが。そういうところも含めて、この庄原市議会で何人必要かをまず固めるところが必要なのではないかなと思います。

○政野太委員長　副議長いかがですか。

○坂本義明副議長　議長も言ったように、議員を選挙のときには認識してくれているのだろうけれども、それ以外のときに議会が前に出る機会は少ないです。今回もやっているように、今度は常任委員会を前に出していこうという考え方も出ていますので、議会はもっと表に出て、議員はこういうことをしているということを市民に見てもらい、認識してもらおうような改革や努力をしていかないといけない。認識してもらえないから、要らないのではないかとか、例えば10万円でもいいのではないかという書き方がしてあるけれども、それは職業として見てくれないわけです。だから、そのあたりをもう少し自分たちも勉強しながら、議会がどんどん外へ出て発信するという努力をしないといけない。議員個人としての努力もしないといけないと思うけれども、議会としての発信力をもう少し高めて、きょうみたいにマスコミさんがおられるときに、しっかり議会はこういうことを議論しているということをしっかり言う。議員はこういうことをしているのだということをいろんな面で発信することが必要。今からの大きな問題だと思います。だから、何をしているかわからないような議員は出てこなくてもいいという言われ方をするのはだめなのです。その認識を変えてもらわないといけないと思います。議長と同じような内容の言い方だけれども、私もそう思う。

○政野太委員長　20名という方ももちろん中にはいらっしゃって、議会のことについて、本当に丁寧に書いてくださる方もいらっしゃいます。定数を減らせと、悪いことが書いてあるところばかりが議論になっておりますけれども、それらも含めて、この意見聴取は、非常に効果のあるものだったと私は感じております。その点についてはよろしいでしょうか。福山委員。

○福山権二委員　アンケートを答えた方の中に、三日市とか庄原市本町地域の人もいるのか。

○政野太委員長　いらっしゃいます。

○福山権二委員　その方がアンケートに答えているわけですね。非常に興味がある。議員の立候補者

がない、議員がないことが何年も続いている地域で、議会はこうあるべきだと意見を出されているわけですね。

○政野太委員長　ここで地域の話になると、また違う議論を始めないといけなくなると思うのですが。

○福山権二委員　実際に立候補してもだめだということと、立候補する者がいないこと。そういうところで市議会にどうかかわるかというのは、ある意味ではこの議論とは違うかもしれないけれども、この地域へ住んでいる人がどう答えられているのかということに興味があります。後から見させていただきます。

○政野太委員長　お気持ちはよくわかりますが、僕ら東城の人間からすると、いわゆる旧7市町という枠で考えたときに、総領、比和はもう不在になっている。そういう捉え方でいくと、また違う考えも出てくると思いますし、また違う議論でさせていただければと思います。よろしいでしょうか。先ほど言いましたように、この意見聴取については本当にありがたい意見をいただいたということで、最終結論までに皆さんしっかりと読み込んでいただければと思います。

2 今後の審査について

○政野太委員長　もうそろそろ最後になると思うのですが、皆さん、これについては今よろしいですか。先ほど申し上げましたとおり、4月25日に委員会としての結論を出していきたいと思います。その前に皆さん方をお願いしておきたいのですけれども、大変長い年数、丸2年かけて、23回の会議をさせていただきありがとうございました。その都度、いろんな意見をいただきながら、我々が調査してきた内容を、いま一度、目を通していただきまして、委員会としての答えということでしっかりと御理解をいただければと思います。これは、最終的には条例変更ということになりますので、本会議での採決になるかと思えます。そこについて、私の個人的な思いですが、この委員会としての答えと本会議での答えが違うということは、あっていいことだと思っております。これは個人的な意見だと思ってください。ただ、委員会としてこの2年間積み上げてきた議論、それに基づいての答えを出していきたいと、私は委員長として考えておりますので、その点だけお伝えしておきたいと思えます。

3 その他

○政野太委員長　そのほか何かございませんでしょうか。局長。

○山根啓荘議会事務局長　4月25日で、一応委員会としてのまとめをされるということなのですが、書面的な報告書については、4月25日の委員会を経て、5月の中旬ごろをめどに整理させていただきたいと思えます。その点も御了承をいただけたらと思えます。

○政野太委員長　國利委員。

○國利知史委員　この委員会は注目されていて、定数を今考えているのだろうか、よく市民の方から言われるのですけれども、例えば4月25日に委員会としての方針というか、考えが固まるではないですか。そこから条例変更までの間、どうなるかわからないのですけれども、決まった後に市民の方々に委員会としてはこういうことですよと言っても大丈夫なのですか。

- 政野太委員長 言うのは大丈夫です。
- 國利知史委員 まだ決まってないけれども、委員会としてはこういう方針ですよという感じですね。
- 政野太委員長 総合的な判断はもちろんあると思うのですが、委員会としての答えを出すだけですの
で、その点はしっかりと含んでいただければと思います。そのほか何かございますか。次回は一人一人に意見をいただいて、それから採決をしていきたいと思います。全員一致ならば採決は要らないのですが。それでは、きょうの会議はこの程度にしたいと思います。お疲れさまでした。

午前11時1分 散 会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長